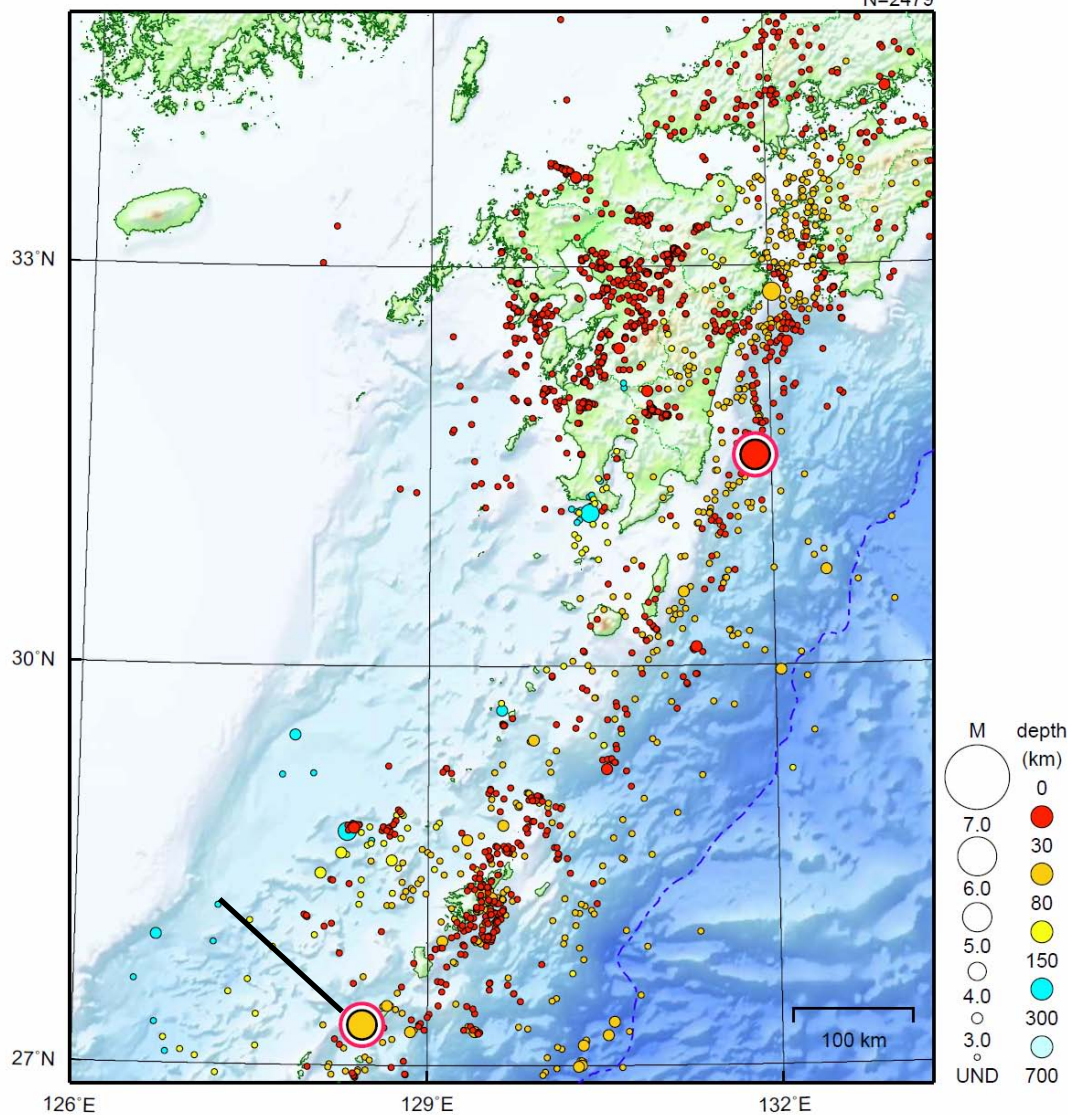


九州地方

2013/03/01 00:00 ~ 2013/03/31 24:00

N=2479



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02V2 を使用

3月6日に沖永良部島付近（沖縄本島近海）で M5.0 の地震（最大震度4）が発生した。

3月11日に日向灘で M5.2 の地震（最大震度3）が発生した。

※情報発表に用いた震央地名は沖縄本島近海

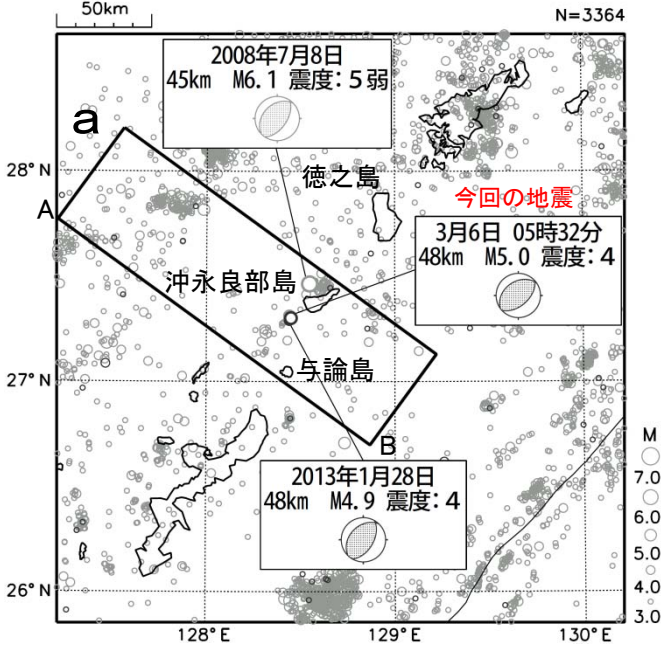
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

3月6日 沖永良部島付近（沖縄本島近海）の地震

情報発表に用いた震央地名は沖縄本島近海である。

震央分布図
(1997年10月1日～2013年3月31日、
深さ0～160km、 $M \geq 3.0$)
2013年3月の地震を濃く表示
発震機構はCMT解



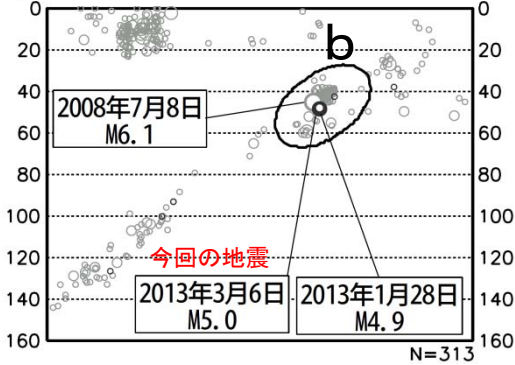
2013年3月6日05時32分に沖永良部島付近（沖縄本島近海）の深さ48kmで $M 5.0$ の地震（最大震度4）が発生した。

この地震の発震機構（CMT解）は北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。この地震の震源付近では、2013年1月28日に $M 4.9$ （最大震度4）の地震が発生している。

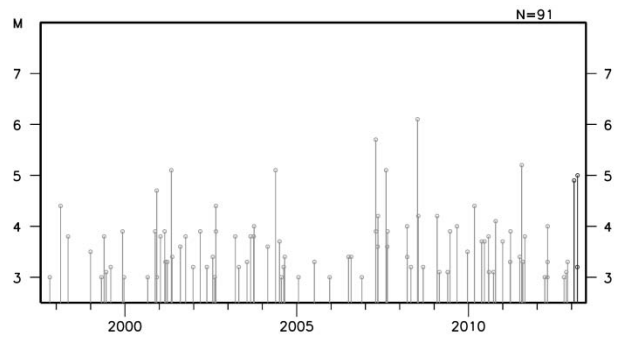
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b）では、2008年7月8日に $M 6.1$ の地震（深さ45km、最大震度5弱）が発生し、鹿児島県与論町のホテルの壁の一部損壊や柱の石膏ボード破損の被害を生じた（総務省消防庁による）。

1970年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）では、 $M 5.0$ 以上の地震が時々発生している。

(km) A 領域a内の断面図 (A—B投影) B

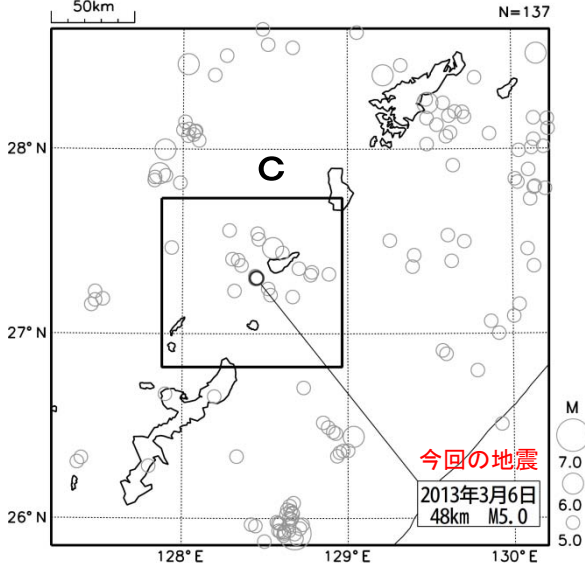


領域b内のM—T図

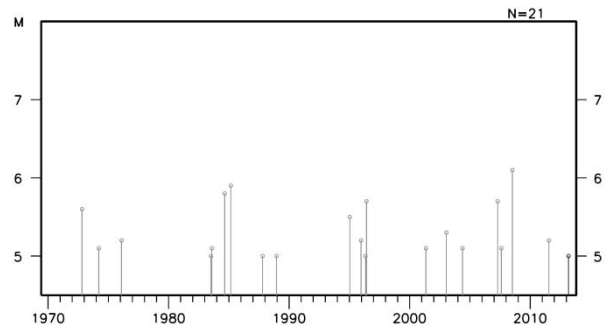


震央分布図

(1970年1月1日～2013年3月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

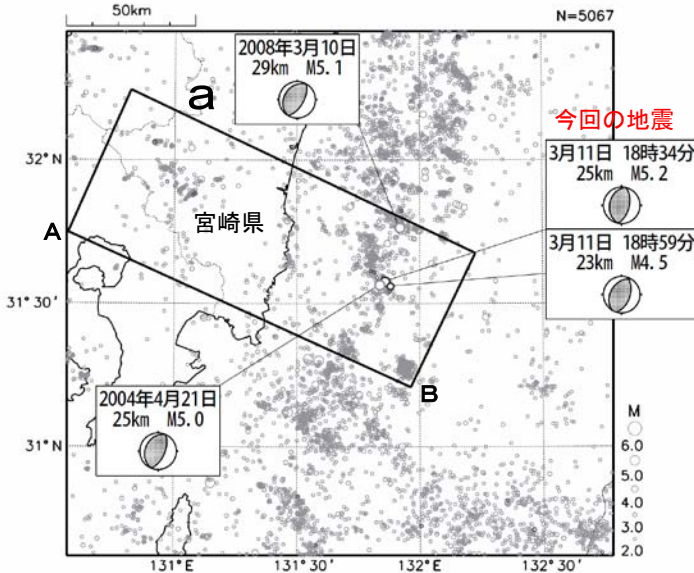


領域c内のM—T図



3月11日 日向灘の地震

震央分布図
(1997年10月1日～2013年3月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)
2013年3月の地震を濃く表示
発震機構はCMT解

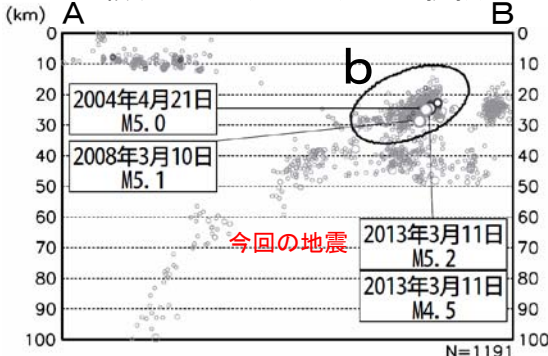


2013年3月11日18時34分に日向灘の深さ25kmでM5.2（最大震度3）の地震が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。同日18時59分にM4.5（最大震度2）の余震が発生した。余震活動はその後低下している。

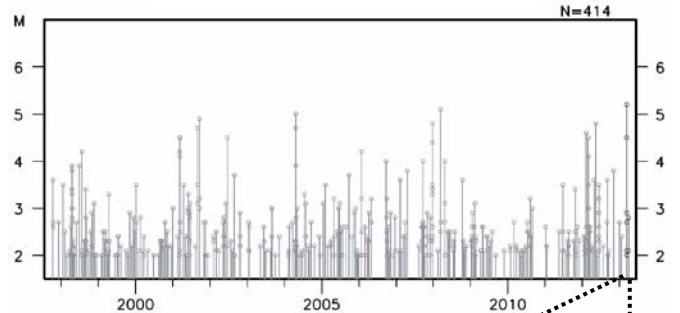
1997年10月以降の地震活動を見ると、今回の震源付近（領域b）では、M5.0以上の地震が今回を含め3回発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の震央付近（領域c）では、M7.0以上の地震が5回発生している。1961年2月27日にM7.0の地震が発生し、宮崎県と鹿児島県であわせて死者2名、負傷者7名、建物の全壊3棟の被害を生じた（「新編 日本被害地震総覧」）。また土佐清水で95cm、油津で90cm、細島で75cmなどの津波を観測した（「日本被害津波総覧 第2版」、津波の値は全振幅）。

領域a内の断面図（A-B投影）

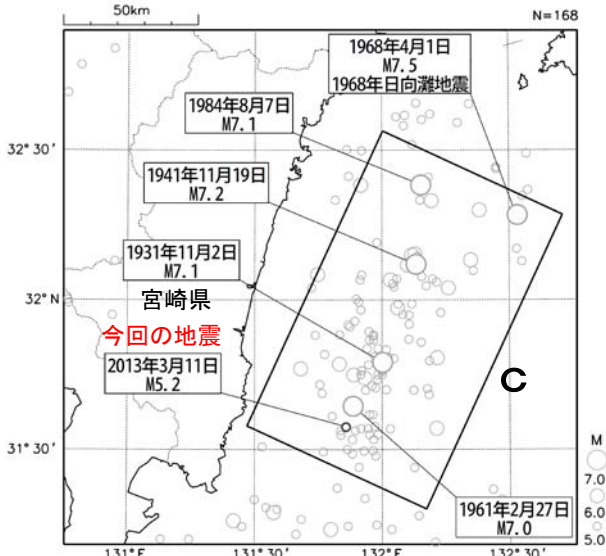


領域b内のM-T図

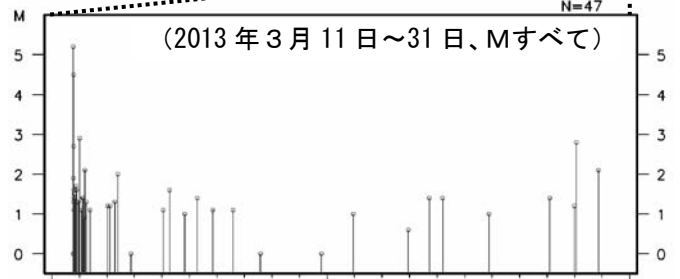


震央分布図

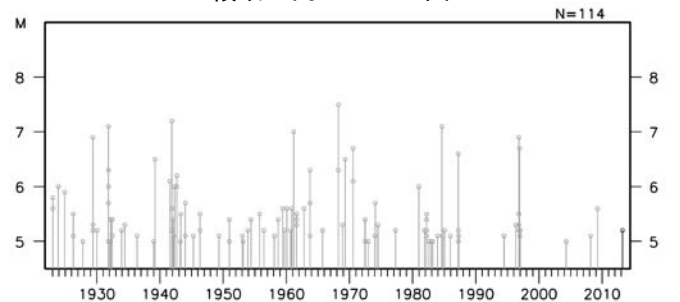
(1923年1月1日～2013年3月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



(2013年3月11日～31日、Mすべて)



領域c内のM-T図



領域c内の今回の地震とM7.0以上の地震に吹き出しをつけた